

経営理念	学校教育目標…力いっぱいがんばる子の育成 めざす児童像…進んで学ぶ子 仲よく助け合う子 元気でたくましい子 めざす教職員像…子どもを大切にす教職員 学び続ける教職員 協働する教職員
------	--

【評価基準】4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった

経営目標	重点努力目標	班	担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて
○進んで学ぶ子(確かな学力)の育成	・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得	1	鈴木 森下 吉本	① 授業での反復練習の指導を工夫する。算数では、授業の初めに「本読み計算」を行う。 ② 学年に応じた家庭学習の習慣づけを行う。 ③ 漢字・計算コンクールを実施して、基礎学力の確認をし、個に応じた指導をする。 ④ 夏休みに、計算力に課題がある3年生以上の児童を対象に算数教室を実施する。	①授業での反復練習の指導を工夫したか。 ②算数では、「本読み計算」を継続的に行ったか。 ③家庭学習の習慣づけができたか。 ④漢字・計算コンクールを実施して、基礎学力の確認をし、個に応じた指導を行ったか。 ⑤算数教室を実施し、計算力のアップに努めたか。	児童 ①3.5 ②3.4 ③3.4 保護者 ③3.3 ④4.3.2 職員 ①3.2 3.3 ④3.3	国語では漢字の空書きや小テストを実施したり、算数では各単元の内容に応じた「本読み計算」を実施したりする時間を概ね設定できた。その結果、反復練習をする機会が増えることで基礎基本が定着し、分かりやすい授業につながっていると考える。 小テストや「本読み計算」を通して、理解の状況を把握し、その状況に応じて家庭課題や補充で補ったり、授業計画を変更したりするなどして、次時への指導に生かすことが概ねできている。 算数教室は、夏休み前半2回、後半2回実施した。2学期からの学習意欲の向上につながった。 漢字・計算コンクールを毎学期実施し、児童に応じて補習や追試を実施することにより、基礎学力の向上につながることができていると考えられる。	「本読み計算」については、継続して取り組みなかった学年もあった。取り組み方の検討が必要である。 家庭学習について、学校全体で検討していきたい。 漢字・計算コンクールの結果を、個に応じた指導により生かしていきたい。
		2	内藤 永田 伊藤	① 「学び合い」をどの場面でどのような形態で行うかを、単元構想に位置付け、日々の授業で意識して実践を行う。 ② わからないことを聞いたり、考えを聞き合ったりできる学習集団づくりを行う。 ③ ペア学習やグループ学習において、考えの伝え方・聞き方・つなぎ方について発達段階に応じた工夫を行う。また、年度末には6学年の系統性をまとめる。 ④ 授業での振り返りを行い、自分の考えの深まりや変容を意識させる。	① 単元構想の中に「学び合い」を位置付けて、実践することができたか。 ② 考えを聞き合えたり、わからないことを聞いたりできる学習集団づくりが行えたか。 ③ ペア学習やグループ学習において、考えの伝え方・聞き方・つなぎ方について発達段階に応じた工夫を行えたか。 ④ 授業の終わりに、自分の考えを振り返らせることができたか。	児童 ②3.3 ③3.1 3.2 保護者 3.4 職員 ①3.0 ②3.1 ③2.7 ④2.6	職員アンケートの結果から、①は肯定的な評価が8割を超え、概ね達成できていると言える。また、②は9割以上の職員が達成できていると考えており、学び合いの雰囲気作りを各職員が意識して授業を行ったことがわかる。しかし、③・④は、両方ともに6割程度に留まった。 児童アンケートの結果から、①・②・③とも肯定的な評価が8割程度となった。①からわかることは、「考えを聞き合えたり、わからないことを聞いたりすること」ができる雰囲気作りが、職員アンケート②と連動してよい結果となっていることである。	「自分の考えを友達にわかりやすく伝えること」については、国語や算数のみならず、朝の会や帰りの会にスピーチ活動や短時間でできる話し合い活動、学級活動としてグループワークの活動を取り入れるなど、児童に「話す・聞く」機会を多く経験させることが手だてとして考えられる。 低学年のうちに、伝え合い、学び合う活動を定型化して取り組み、系統的に指導していくことが大切だと思う。
○仲よく助け合う子(豊かな心)の育成	・問題解決的な視点に基づいた道徳の時間の充実	3	笠巻 中川 小塚	①道徳の授業研修や教師間の授業公開により、教師が、問題解決的な視点に基づいて授業を組み立てる力を高める。 ② 道徳の授業を体験的な活動(行事や教科)と関連付けて計画・実施する。 ③ 道徳の時間における学び合いを通じて、児童が、多面的・多角的に物事を考えることができたかどうかを検証する。	①道徳の授業を計画的に行うことができたか。また、発問や展開の工夫をすることができたか。 ② 児童が、道徳の時間に、体験的な活動と道徳的価値とを関連させて考えることができたか。 ③ 道徳の時間における学び合いを通じて、児童が、多面的・多角的に物事を考えることができたか。	児童 ②3.3 ③3.3 3.3 保護者 ③3.3 職員 ①2.5 ②2.6 ③2.8 ④2.5	どの項目についても職員の評価が低く、課題が多い。 年度当初、行事などの体験的な活動と関連付けて授業が行えるように年間予定を立てているが、実際は計画的に授業を行うことができていない。道徳が教科化されるにあたって、必要に応じて年間予定を修正しながら、確実に授業を行っていくことが課題である。 児童アンケートでは、話し合いを通して友達の意見のよいところに気付くことができたかという問いに対して、8割以上の児童が「とても」または、「まあまあ」できたと回答しており、いろいろな考えに触れ、多面的・多角的に物事を考えることにはつながっていると考えられる。	児童の考えにどのような変容が見られたかを確認したり、評価に役立てたりするためにも、今後は各学年の発達段階に応じて、授業の中で書く活動を取り入れ、記録を蓄積していくとよい。
		4	水野 後藤 廣下	①代表委員会のメンバーで『学校見守り隊』を結成し、月2回、挨拶運動を行う。また、全校児童が挨拶運動に参加できるように『あいさつやってみ隊』を募集する。 ②あいさつウィークを設定し、挨拶・会釈を習慣づけする。 ③児童会主催の集会を設け、「企画運営委員会」で企画・運営を行う。必要に応じて代表委員会に協力を呼びかけ、集会を進行する。 ※1年生を迎える会(4月)…全校で1年生の入学を祝う。 ※チャレラン大会(7月)…各クラスで運営し、交流を深める。 ※運動会の応援合戦(9月)…6年生が中心となって運動会を盛り上げる。 ※クリスマス集会(12月)…会場の飾り付けやゲーム等の進行をする。 ④縦割り班を編成し、清掃や集会、読み聞かせ等の活動を行い、縦のつながりを深め、思いやりや感謝の気持ち、自己有用感を育むことを目指す。 ⑤いじめに関するアンケートや教育相談、チャンス面談を実施し、こころの健康の増進を図り、安心して生活できる学校づくりに努める。	① 児童は、進んで挨拶・会釈をすることができたか。 ② 集会や行事、縦割り班活動等を通して、児童の自己有用感を高めることができたか。 ③ 児童が安心して学校生活を送ることができたか。	児童 ①②3.5 ③3.6 3.8 ④3.6 ⑤3.5 3.0 3.7 職員 ①②3.4 ③3.4 ④3.1 ⑤3.4	校内で児童とすれ違ふと、ほとんどの児童が挨拶をする。また、校外学習へ出掛けるときにもきちんと挨拶をすることができる。しかし、地域住民に向けた挨拶はできていない。地域住民の協力も得ながら挨拶啓発活動に取り組んでいく必要があると考える。 お楽しみ集会や行事、縦割り班活動には、9割以上の児童が進んで取り組むことができた。 児童アンケートでは、9割近くの児童が、「先生は自分の気持ちを分かってくれる」「いじめや生活の指導をきちんとしてくれる」と回答しているが、「困ったときに先生に相談できますか」の項目では3割の児童が、否定的な回答をしている。いじめの相談状況を見ても、教師に相談していない児童が保護者に相談して解決された案件も多く見られる。この項目について、教師は、「先生に相談できる児童」を目指すのではなく、「信頼できる誰かに相談できる児童」の育成を目指すべきなのではないかと考える。	登下校中の地域でのあいさつ運動を工夫してはどうか。 困ったときは、担任の先生だけでなく「信頼できる誰か」に相談できるような働きかけをしていく。それに伴い、アンケートの内容を検討する。
○元気でたくましい子(健康やかな体)	・健康教育、食育の推進 ・体育的な行事・活動の充実	5	山下 村川 伏見	①朝ごはんチェックカードを行い、バランスの良い朝ごはんを食べて登校できる児童を育てる。 ②保健だよりを通して、児童や保護者に健康情報を発信する。 ③運動会に向けて、自己評価カードを作成し、自分のめあてを意識させ、進んで取り組めるようにする。 ④志水っ子ランニングやなわとび運動では、記録カードを活用し、目標や成果が分かるようにして、運動への意欲を高めたり、体力の向上を図ったりする。	①バランスよく朝ごはんを食べることができたか。 ②めあてをもって、進んで運動会の練習に取り組めたか。 ③志水っ子ランニングやなわとび運動に意欲的に取り組めたか。	児童 ①3.4 ③3.8 ④3.6 保護者 ①3.2 ③④3.4 職員 ①3.4 ②3.2	①については、8割以上の保護者、児童が「とても」「まあまあ」と回答していることから、概ね達成できているといえる。これは朝ごはんチェックカードを効果的に活用できた結果だと考える。養護教諭による個別指導も行った。しかし、チェックカードの振り返りには、「期間中だけでなく、普段からもバランスよく食べてほしい」という保護者の感想が多く見られた。 ③については、9割以上の児童が一生懸命取り組めたと回答しており、どの児童も運動会に向けて意欲的に取り組めたことがわかる。 ④については、活動の様子を見ると、どの児童も意欲的に取り組んでいた。	「バランスのよい朝ごはん」の取組については、保健指導やほけんだよりを活用し、年間を通して啓発していく必要がある。 より運動への意欲を高めたり、体力の向上を図ったりするためには、年間を通して系統的に運動計画を立て、運動する機会や用具等の環境を整えていく必要がある。

【評価基準】4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった

経営目標	重点努力目標	班 担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて
○開かれた信頼される学校づくり	・地域のボランティア、ゲストティチャーの意図的・計画的な導入	6 藤井 辻 佐藤	①ホームページの記事や学年便り、PTA委員会等を通じて、家庭・地域から人材を募集する。また、ホームページの配付文書のコーナーにも全学年の保護者が見ることができるよう、人材募集の便りを掲載する。 ② 各教科、総合的な学習の時間等で地域の人材や施設、出前講座などを活用する計画を立て、実施する。 ③ 出前授業等の内容や感想の記録をファイルやデータとして残し、次年度の参考にできるようにする。	①ホームページや学年便り等を通して、必要に応じてその都度、募集案内を出すことができたか。 ②地域や外部ボランティア、ゲストティチャーなどの活用計画を立て、実施することができたか。 ③出前授業等の内容を次年度に参考になるよう残すことができたか。	児童 ②3.6 保護者 ①②3.4 職員 ①2.3 ②3.2 ③2.9	ホームページで広く募集することは難しく、なかなか行えなかったが、必要と考えた外部講師やボランティアは確保することができた。人数がそろわない場合は、町探検等、該当学年以外の保護者にもボランティアを募集していくのも良いのではないかと考える。どの学年も活用計画を立て、出前授業等を実施することができた。児童や保護者のアンケートを見ても、出前講座等の内容には満足していると考えられる。 学年毎には資料や写真を残しておくことはできているが、いつでも確認できるような書式で、学校フォルダの中に記録していくと、次年度の役に立つと思われる。 【出前講座・見学等】1年（ペープサート・絵の具指導・昔の遊び体験・フラダンス） 2年（町たんけん） 3年（リコーダー指導・町探検・辞書引き学習・どじょう寿司・歴史民俗資料館） 4年（パッカー車・下水道講座・消防署見学・豊山大鼓・版画指導・百科事典の活用・CAP講習会） 5年（しょう油講座・いろはに邦楽・お魚大好き、命の講座・豆腐作り） 6年（薬物乱用教室・いじめ予防・走力アップ・まちづくり・租税教室・航空ミュージアム見学） 3～6年（情報モラル教室） 4～6年（福祉実践教室） 全学年（読み聞かせ・どんぐり読書会）	出前講座については、担当者が確実に次年度に引き継げるようデータや紙媒体で記録を残し、次年度に引き継いでおきたいことも記録しておく。 上記のものは別に、簡単な一覧表を作成し、次年度の参考にできるようにしていく。
	・家庭や地域の声を生かした有効な学校評価の実施と学校改善 ・学校公開の充実 ・ホームページ、各種たよりを活用した情報発信	7 教頭 齋藤	①前年度の意見を生かすとともに、学校教育目標、重点努力目標に基づき、十分検討をした上で学校評価の取組を行う。 ②自己評価書を公表し、学校評議員会・学校関係者評価委員会での意見を反映して評価結果をまとめる。また、次年度に向けた改善方策を全教職員で検討する機会を設ける。 ③地域や保護者の方に、学校を訪れる機会を計画的に設ける。 ④ホームページや学年便り、保健便り、生徒指導便り等を通し、児童の様子や学校の取組について情報発信をする。	①学校教育目標、重点努力目標に基づいた「具体的な取組」について、全職員が共通理解し、取り組むことができたか。 ②学校評価の取組を学校改善につなげることができたか。 ③地域や保護者の方に学校公開を計画的に行うことができたか。 ④ホームページや便りを活用して情報発信をすることができたか。	保護者 ①3.4 ③3.5 ④3.5 職員 ①3.0 ②3.1 ④3.3	保護者のアンケートからは、本校の教育目標及び重点努力目標について、概ね理解していただいていることが分かる。学校公開やホームページ、各種便りを通して、児童の様子や学校の取り組み等の情報発信することができた。自由記述の中には、担任のきめ細やかな対応に好意的な意見が多くあった。 職員アンケートでは、重点努力目標を意識して取り組めていないと回答した職員が2割いた。しかし、学級経営案を見る限り、学校経営案の内容は反映されていると考える。 学校評価については班体制で行っているが、多忙の中でも班ごとに意見をしっかりまとめている。	重点努力目標に基づいた「具体的な取組」について、十分検討する時間を設ける必要がある。 学期ごとに、必ず重点努力目標に基づいて振り返りをする。 ホームページのアクセス数が少ないので、学年便りで毎月呼びかける。
○教職員の資質向上と協働体制の確立	・授業、特別支援教育に関する教職員間の学び合いの充実 ・先進校の視察や外部講師招聘による研修場の設定	8 伊藤 小柴	①低・中・高学年部会において、研究授業に向けた指導案検討を計画的に進める。 ②研究授業では、教師・児童の活動について付箋を使って記録し、研究協議会での検討に生かす。児童の学びの姿から授業の在り方を見直す。 ③個別の支援が必要な児童に関して、関係職員が共通理解をもち、チームでできる支援を考える場（ケース会議）を設定する。 ④現職教育のテーマに沿って先進校の視察をしたり、外部講師による研修の場を設定したりする。	①各部会において、指導案検討をしっかりと行うことができたか。 ②研究協議会では、意見交換を積極的に行い、児童の学びの姿から授業の在り方を見直すことができたか。 ③ケース会議によって、職員の共通理解が図られ、効果的な支援を行うことができたか。 ④先進校の視察や外部講師の講義などにより、教師としての力量向上に努めることができたか。	職員 ①3.1 ②3.1 ③2.8 3.1 ④2.9	授業者は、現職教育のテーマに沿って授業を工夫した。各学年部会では指導案の検討を1回以上行うことができた。 研究協議会でペア活動やグループ活動の効果をもっとしっかり検討するために、抽出児童や抽出グループを決めて観察したり、観察の視点・目的ごとに担当を割り振ったりして、分析が詳しくできるようにしたい。 職員全体でのケース会議を行う児童はいなかったが、支援が必要な児童については関係職員が集まって打合せを行うことができた。この内容を職員全体で共通理解をどのように図るかが課題である。 現職教育や新教育課程に合わせて、さらに役立つ研修を企画していく必要がある。	教務主任を中核として、授業研究、研究協議会を通して得たことを日々の授業実践に生かしていきたい。 職員打合せ、ケース会議、いじめ不登校対策委員会、生徒指導全体会等の機会を活用し、職員全体で共通理解を図るよう努めていく。 先進校の視察を増やして、研修の充実を図っていきたい。
	・分掌の明確化と協力し合える体制づくり ・自由に意見を交わえられる民主的な職場づくり	9 校長 遠藤	①「学校」が有する仕事を明確にし、適正に分担する。 ②特定の人に負担が偏らないように、学校行事の担当の割り振りを行う。 ③提案事項によっては、事前に担当者会や学年主任者会を行ったり、アンケート等で意見を募ったりする。 ④報告・連絡・相談が学年間、担当間等で確実に行われ、学校全体に広がるようにする。	①校務分掌が明確で、仕事が特定の人に集中していないか。 ②お互いに協力し合い、意見を交わえられる体制になっているか。 ③報告・連絡・相談体制が機能しているか。	職員 ①3.0 ②3.2 ③3.1 ④3.4	職員アンケートでは、「仕事が特定の人に集中していないか」で、昨年度より0.5%上がった。校務分掌の在り方が改善されたことや分担された仕事を協力して行うことができたからだと考えられる。しかし、10%を上回る職員が「集中している」という思いを抱えているので、まだまだ改善していかなくてはならない。 各担当は、周りの職員に意見を聞いたり相談したりして、よりよい提案を行おうと努力した。また、学年主任会や担当者会も複数回行い、意見を交換した。	年度当初の校務分掌を職員全体でしっかり検討する。 報告・連絡・相談体制が十分機能していないと回答した職員をフォローできるようにしていきたい。 打合せ時間等が勤務時間外になってしまうこともあるのは課題である。時間を調整できる場所は、先を見通して計画的に行っていきたい。

学校関係者評価(その他の意見・改善策等)

<p><あいさつについて></p> <ul style="list-style-type: none"> 先生方が気持ちのよい挨拶をしてくれる。先生の姿を見て子どもが育ち、学校が活気づくと思う。親の姿を見て子どもは育つので、親の意識も大切である。 <p><出前講座について></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもは出前講座があると家でよく話をしてくれる。出前講座は大好きなので、続けていただけるとうれしい。 保護者にも参加を呼びかけてほしい。 <p><家庭学習></p> <ul style="list-style-type: none"> 宿題の量がクラスによって違う、と子どもから聞く。「わからない」問題に困っていて、先に進めない子どもがいる。低学年は特に自分からは開けないのでは。 宿題については、他の地区の保護者から「すごいね」「いろいろやってくれるんだね」と言われることが多い。中学校へ行ってびっくりするより、よいと思う。 <p><部活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 大変楽しく活動していた。子どもにとってよい経験であった。 <p><道徳></p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳は、自分で考えることが大切だと思う。子どもは、親の影響大ききを受けるので、親も交えて話せる場があるとよい。 <p><指導面></p> <ul style="list-style-type: none"> 先生のきめ細やかな指導に感謝している。「保健だより」を楽しみにしていて、洗面所に歯磨きの仕方を貼って取り組んでいる。学校での指導を素直に受け入れている。 <p><心のケア></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが相談できないとあるが、悩みを引き出す方法を工夫してほしい。
